2017 年度　一般社団法人日本障害者カヌー協会　事業計画

一般社団法人日本障害者カヌー協会は、日本における障害者のカヌーに関する統一組織として、スポーツとしてのカヌーの普及を目的とし、これを通して障害者の生活圏行動圏を拡大していくことに寄与することを目的として、その社会的役割を果たすため定款に基づく事業を行うものとする。

日常の中での楽しみの一つであるスポーツとしてのカヌーの普及を基盤とし、障害者健常者関係なく、誰でもカヌーを楽しめるユニバーサルな環境づくりを推進する活動を行います。

パラリンピックサポートセンターの助成を受け、普及事業を拡大してパラマウントチャレンジカヌーの企画だけでなく、広告マーケティング媒体の製作、メディアでの公開や露出を増やし国内の障害者カヌーの認知を高める活動を行います。

パラマウントチャレンジカヌーについては、関西圏から関東圏への進出をめざす為、霞ヶ浦・小松市・静岡で新しく計画し、定着していくものとなるよう地域の協力を得ながら、地域性のあるパラチャ環境を作り出します。

SNS や HP 等の情報発信を積極的に行い、幅広い事業活動を公開することで新規会員の獲得や、障害者の社会参加につながる企画を広げていきます。特に、関東以北の情報を集め、新しい川や湖、海などパラマウントチャレンジカヌーが出来る場所の環境調査を行い、協力団体や施設を増やして地域と共に環境設備やユニバーサル環境について考えていきます。

以前から行ってきた講習会や講演会や体験会に関しては、関西圏・関東圏と主要会員の中で、役割分担し一斉に全国に拡大できる組織作りを目指します。

2020年東京大会開催に向けた競技力強化の取り組みについては、公益財団法人日本カヌー連盟、公益財団法人日本パラリンピック委員会（JPC）及び、日本スポーツ振興センターをはじめ、東京オリンピックパラリンピック準備局、東京オリンピックパラリンピック競技大会組織委員会、スポーツ庁との緊密な連携をもとに強化活動、会場設備の整備、ユニバーサル環境の促進に努める事とします。

基礎基盤の強化という点で競技人口の増加を目標とし、強化指定選手の拡大、強化指定スタッフの拡大を目指す。また、競技力強化に必要な施設関係とも協力し、それぞれの専門分野の能力を十分に発揮できる体制を作り、一丸となって競技力の向上に努めます。

計画として、2017 年度、World Cup、世界選手権にトップレベルの選手の派遣、入賞を目指します。東京2020年の Var 種目の正式採用を目指して、日本カヌー連盟と連携した ICF への働きを行います。

強化指定選手だけでなく全体の練習環境の整備を整えるため、NTC 木場潟と連携した選手のサポートを行い、NTC での合同合宿、健常チームからのコーチ依頼、JPC の医科学サポートの最大限の活用、指導者やアスリート研修会の参加に対して積極的参加を呼びかけ、競技力向上に努めます。

またアジア大会では、2020年東京大会に向けた海外での大会の経験として、強化選手、強化スタッフを積極的に派遣します。そこには、競技力の強化だけでなく、定款にある行動権、生活圏の拡大という点での選手の自立を目的としています。

国内大会に関して、パラレース特有の役員を協会内で養成し、各地の大会に派遣できる体制になるよう支援スタッフやパラ役員候補を募ると同時に、パラ役員としての専門的な教育を行い、協会企画の大会が行えるような新たな役員の確保に取り組みたいと思います。